

平成21年度科学研究費補助金実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号 3 2 6 0 4      2. 研究機関名 大妻女子大学
3. 研究種目名 基盤研究(C)      4. 研究期間 平成20年度～平成22年度
5. 課題番号 2 0 5 3 0 4 7 4
6. 研究課題名 社会運動としての在宅医療と医師のライフヒストリー

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
5 0 1 9 4 2 2 0	フリガナ オオデ ハルエ 大出 春江	人間関係学部	教授

8. 研究分担者(所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。)

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
	フリガナ		
	フリガナ		
	フリガナ		
	フリガナ		
	フリガナ		

9. 研究実績の概要

下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600字～800字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

2009年度の研究は大きく分けて3つの点にまとめることができる。1点目は2006年度以降を中心とする開業医師の在宅医療実践とそこに生起する諸問題をとらえるために、文献資料を収集、2点目として、在宅医療を社会運動の視点からとらえ、2006年度の医療制度改革以前に行われていた医師や看護師等による独自の取り組みを歴史的に理解し記述するため、開業医師のライフヒストリーの聞き取りをさらに継続した。3点目として、医療・看護・福祉関係者が集う全国レベルの大会に出席し、情報を集めるとともに交流をはかった。2009年度は兵庫県および山梨で開業する医師にインタビューを実施した。在宅医療および在宅ケアにかかわる全国規模の学会・研究会(高知、名古屋、長野、群馬、東京、千葉)に参加した。また人工呼吸器をつけた子どもたちと親の会、市民による「生と死を考える会」に参加した。以上の調査は、研究協力者とともに2名で実施した。インタビュー調査では、1990年代におこった〈在宅ケアの全国ネットワーク化〉の黎明期を支えた医師、および、緩和ケアおよび在宅医療にかかわる無床診療所の医師と有床診療所の医師、さらに有床診療所を開設後、経済的理由から閉鎖した医師を対象に実施した。

有床診療所という医療実践は 1)地域性 2)人間関係の個別性 3)医療者－患者・患者家族間の意思決定と伝達の迅速さ 4)多職種間の円滑な意思疎通 5)専門的サービスと同時に生活支援サービスの提供、という点で病院組織とは区別される特徴をもつことがわかった。単身世帯化、家族の小規模化が進行する現代において医療と生活支援機能を提供可能な有床診療所の役割と医療実践は(緩和ケアを行う診療所は、特に経営的厳しさを抱えているが)さらに注目、評価される必要がある。

10. キーワード

- |              |          |            |
|--------------|----------|------------|
| (1) 在宅医療     | (2) 在宅ケア | (3) 訪問介護   |
| (4) ライフヒストリー | (5) 語り   | (6) ネットワーク |
| (7) 医師       | (8) 看護師  | (裏面に続く)    |